

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：34104

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K10619

研究課題名（和文）看護技術指導に活かすナーシングスキルオノマトペデータベースの構築

研究課題名（英文）Construction of a Nursing Skills Onomatopoeia Database for Nursing Skills Instruction

研究代表者

大津 廣子 (Otsu, Hiroko)

鈴鹿医療科学大学・なし・客員教授

研究者番号：70269637

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：【目的】看護教員が看護技術指導時に使用しているナーシングスキルオノマトペ（以下、オノマトペと呼ぶ）の実態を明らかにし、技術指導力向上に役立つデータベースを構築する。【方法】看護教員に対する質問紙調査と若者（19歳から21歳）を対象にしたWEBによるアンケート調査。【結果】看護教員が用いているオノマトペは、「そっ」が最も多く、次いで「ぴったり」、「すっ」などであり、これらのオノマトペを用いた動作に対する若者のイメージは、看護教員と同じ動作イメージを有していた。収集された10531語のオノマトペは、「素早さ」「正確性」「瞬時性」に分類された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、看護教員が技術指導に使用しているナーシングスキルオノマトペの特徴を明らかにすることができ、ナーシングスキルオノマトペのデータベースの一部を構築することができた。このデータベースは、看護技術の指導経験の浅い教員が、効果的な技術指導を実施することに役立ち、看護教員の技術指導力の質向上に貢献できる。

研究成果の概要（英文）：[Objective] To examine nursing skill onomatopoeias (hereafter referred to as onomatopoeias) used by nursing teachers in instruction of nursing skills and to construct a database that will be useful for improvement of skills instruction. [Methods] A questionnaire survey for nursing teachers and a web-based questionnaire survey for young people (age 19-21) were conducted. [Results] The most commonly used onomatopoeia by nursing teachers was “soh” (gently), followed by “pittari” (fitting perfectly) and “suh”. The young people’s images of actions for these onomatopoeias were the same as those of the nursing teachers. A total of 10,531 collected onomatopoeic words were categorized as “quickness”, “accuracy” and “instantaneousness”.

研究分野：看護技術教育

キーワード：看護技術指導 ナーシングスキルオノマトペ 看護教員 若者 動作イメージ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

看護分野においては新卒看護師の看護実践能力の低下が問題視され、2009年度の看護基礎教育の改正カリキュラムにおいては、卒業時における看護技術の到達度の明示や、技術教育に対する取り組みが強化された。しかし、看護学生の現状は、看護教員が演示して見せた技術が模倣できない、紐が結べない、タオルを絞れない、アンブルカットができずに、アンブルを握りつぶしてしまうなどの行動が多くみられる。看護技術を修得させる方法としては、学内演習という授業形態により展開されていることが多く、学習者に看護技術の動作を見せるために、教員が演示(デモンストレーション)をして指導する方法がよく用いられている(大津・佐藤, 2013)。しかし、看護技術を指導する多くの教員は自分の教え方に対して、表現力は不十分であり、演示時の解説は得意でないという意識を持っている(大津, 2012)。このことは、看護技術の指導において、多くの教員が演示を用いて指導しているにも拘らず、演示の効果が充分でないといえる。

一般的に技術や伝統芸能の修得は、模倣から始まると言われている(生田, 2007)。看護技術教育においても、技術習得の第一段階は教員から示された動作を学習者は観察し、知識を想起させながら行動するという模倣から始まる。そして、反復練習を繰り返し、意識することなく自然にそのことが適切にできるようになる自動化の段階へと到達するのである。それゆえ看護技術教育においては、教員が自らの行動により学習者の理解を促進させる方法である演示は、重要な意義がある。教員による演示は、視覚的指導であり学習者の学習意欲を刺激するが、黙って動作を見せるのみでは効果は少なく、指導内容を容易に伝達することのできる言語的指導(以下、指導言語という)を用いてこそ、効果的な演示といえる。

指導言語は、教員と学習者間に行われる相互作用であり、看護技術の演示や指導をより効果的にするためには、指導する技術や学習者の特性を考慮した指導言語を使用し、学習者が動作のイメージを鮮明に描くことができる言語表現を用いることが重要となる。看護以外の他分野では動きとイメージを結びつける言葉としてオノマトペが使用されることが多く、運動感覚を伝えるための言語表現としてオノマトペは非常に有効な言語であることが報告されている(藤野 他, 2005)。そこで、看護教育分野においても、看護技術を修得させるための指導言語にオノマトペを使用すると動作などのイメージが容易になり効果的な指導につながると考えられる。そのために、看護教員が看護技術の指導時に使用しているナースングスキルオノマトペの実態を明瞭にし、さらに収集されたナースングスキルオノマトペを、看護技術を指導する教員が共有可能なデータベースとして構築を試みる。

2. 研究の目的

看護基礎教育で学生に習得させたい各種の看護技術の指導に有効なオノマトペを抽出・精選し、看護技術を教える看護教員の看護技術教育力の向上に役立つナースングスキルオノマトペ(以下、オノマトペと呼ぶ)のデータベースの構築を行う。

3. 研究の方法

(1)第一段階は、看護技術を担当している全国の看護系大学及び看護専門学校より無作為に抽出した1434名の看護系教員を対象に、研究者間で作成した無記名自記式質問紙を用い調査を実施した。調査内容は、看護教員の年齢、性別、看護資格、教育的背景、看護教員経験年数の項目、1・2年生に看護技術の講義や演習の場面で、技術指導や説明する際に用いているオノマトペについて生活援助技術や診療援助技術の要素行動を調査項目とした。要素行動は、演示する際に学生に対して視覚的情報を補完する必要がある動作を複数の看護技術のテキストを参考に研究者間で精査し60項目を抽出した。抽出した要素行動について、学生がイメージしにくいであろう動作に下線をつけ、その動作を学生に指導する場合に、どのようなオノマトペを使用しているか

について調査した。作成した質問紙はプレテストを行い、内容の妥当性を確保した。

分析は、基本属性の単純集計と生活援助技術、診療援助技術の要素行動の項目別に、講義や演習の場面で用いているオノマトペとその割合について集計した。オノマトペの抽出は、SPSS Text Analytics for Surveys Ver.4 を用い、抽出したオノマトペは、「日本語オノマトペ辞典(小野, 2020)」で類語を整理した。

(2)第二段階は、第一段階で得られた看護技術指導時に教員が用いているオノマトペに対する、若者の動作イメージについて、WEB によるアンケート調査を実施した。対象は、看護学生の1年次、2年次に相当する若者19歳から21歳とし、調査に同意が得られた2500名を対象とした。調査内容は、看護教員が使用しているオノマトペ(すっ、すーっ、そっ、そーっ、ぴったり)の結果を用い、生活援助技術や診療援助技術の動作に関連した日常生活動作(以下動作とする)20項目を精選した。20項目の選択肢は「日本語オノマトペ辞典(小野, 2020)」を参考に作成し、3つの選択肢から、その動作のイメージとして最も適しているものを回答する設問とした。分析は、統計解析ソフト IBM SPSS Statistics Ver26.0 を使用し²検定と残差分析を行った。有意水準は5%とした。

(3)第三段階は、第一段階、第二段階の調査結果をもとに、看護技術の指導に有効なオノマトペの特徴を明らかにしデータベースについて検討した。分析は、第一段階で得られた総計10531語のオノマトペを50音順に区分し使用頻度について整理した。さらに使用されているオノマトペが意味している動作内容について検討し、同じ意味内容ごとに分類をした。

(4)本研究は、鈴鹿医療科学大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号:443)(承認番号:466)を得て実施した。

4. 研究成果

(1)基礎看護技術の指導時に教員が用いているオノマトペ

用語の定義

オノマトペ:擬音語、擬声語、擬態語の総称であり、看護教員が看護技術の指導時に使用しているナースングスキルオノマトペをさす。

生活援助技術:体位交換、清拭、足浴、洗髪、寝衣交換、排泄の援助、足浴、シーツ交換、マッサージなどの日常生活に必要な看護技術をさす。

診療援助技術:傷病者の援助、感染予防技術、採血、与薬、酸素投与、吸痰、経管栄養法、導尿、浣腸、バイタルサイン測定などの治療、検査など診療に必要な看護技術をさす。

要素行動:援助の一連の流れの中で物事を成り立たせている行動

②対象者の概要

質問紙は、1434部配布し332部を回収した(回収率23.2%)。有効回答332部を分析対象とした。対象者の性別は、男性11人(3.3%)、女性314人(94.6%)であった。年代をみると最も多かったのは40代131人(39.5%)、次いで50代128人(38.6%)であった。教員経験年数は、1~5年未満73人(22.0%)、5~10年未満75人(22.6%)、10~15年未満70人(21.1%)、15~20年未満47人(14.2%)であった。看護技術の指導時にオノマトペを用いたことがある教員は、262人(78.9%)であった。

看護技術の指導場面で用いているオノマトペ

生活援助技術の要素行動30項目全体で、教員が用いているオノマトペは、258種類で総述べ数5590語であった。最も多く用いているオノマトペは、「そっ(以下、そーっを含む)」で877語(16%)であり【1.ベッド柵を外し、掛け物と枕を外す】などで用いられていた。「ぴったり(以下、ぴたっを含む)」は、729語(13%)で【9.両手の手のひら全体を施術部位に密着させ

る】などに用い、「しっかり」は、487語(9%)で【23.洗淨剤を用いて清拭した後は、洗淨剤が残らないようにふき取る】などに用いられていた。診療援助技術の要素行動30項目全体で、教員が指導に用いているオノマトペは279種類、総数4941語であり、最も多く用いているオノマトペは、「すっ(以下、すーっを含む)」793語(16%)で【38 刺入部に消毒用アルコール綿を軽くあて、針をそのままの角度で抜く】などに用いられていた。「そっ」は、692語(14%)で【33 皮膚からテープをはがす】などに用い、「ぴったり」は445語(9%)で【55 体温測定は、体温計を腋窩に挿入し腋窩を密着させる】などに用いられていた。看護教員が指導時に使用していた上位1位のオノマトペを表1に示す。

番号	生活援助技術	1位のオノマトペ	番号	診療援助技術	1位のオノマトペ
1	ベッド欄を外し、掛け物と枕を外す。	そっ (63.2)	31	両手を組み、指と指との間を覆い合わせて洗う。	ゴシゴシ (34.6)
2	患者の上肢を下から支えて腕を組ませる。	そっ (51.2)	32	リダの合図で担架に傷病者を降ろす。	そっ (35.2)
3	看護師は患者の膝関節に右手を当て、向こう側に倒す。	そっ (40.2)	33	皮膚からテープをはがす。	そっ (45.4)
4	看護師は、患者の膝関節に右手を当て、手前側に倒す。	そっ (35.5)	34	手袋をカウチの手首部分を覆うように装着する。	ぴったり (28.3)
5	移動した時に中央に頸部が来るように枕をずらす。	すっ (37.7)	35	採血では、上肢の内側を上にして肘枕の上に載せ、採血部位を伸展させる。	びーん (12.9)
6	看護師は患者を回転させ、下肢をベッドから降ろす。	そっ (45.7)	36	注射部位を消毒用アルコール綿で、中心から外側に円を描くように消毒する。	くるくる (33.7)
7	看護師の両腕を患者の腰部の後ろに回し、手を組み脇を締める。	ぎゅっ (54.3)	37	抗凝固剤入りの採血管で採血後は、5回程度転倒混和する。	ゆっくり (9.9)
8	看護師はシーツを持ち、対角線方向に引っ張り、しわを伸ばす。	びーん (74.6)	38	刺入部に消毒用アルコール綿を軽くあて、針をそのままの角度で抜く。	すっ (42.1)
9	両手の手のひら全体を術野部に密着させる。	ぴったり (88.2)	39	注射針を溶解液バイアルのゴム栓に垂直に穿刺する。	すっ (13.2)
10	患者に振動を与えずにシーツを引き出す。	そっ (44.0)	40	酸素ボンベのバルブを開ける。	ぎゅっ (6.3)
11	汚染したシーツ類を皮膚の露出や毛髪などが飛散しないように丸める。	くるくる (39.2)	41	圧力調整付き流量計の取り付けは、床に対して垂直になるように取り付ける。	しっかり (12.6)
12	足元の方へシーツを引っ張り、しわを伸ばす。	びーん (71.2)	42	吸引カテーテルを回転させながら吸引する。	くるくる (19.2)
13	足浴の場合、ベースンに足趾から足関節まで湯につける。	そっ (35.6)	43	鼻腔から咽頭の生理的湾曲にそって、経管栄養チューブを挿入する。	すっ (14.1)
14	背部のマッサージは、腰部から肩甲間部に向けて長いストロークで握る。	すっ (31.0)	44	経管栄養法では、注射器で白濁を注入し、チューブ内の栄養剤を流し込む。	すっ (7.8)
15	患者の手背に密着させた手で、やや圧を加えて円を描くように揉む。	くるくる (49.0)	45	女性の導尿は、小陰唇の左右の内側を上から下へと消毒する。	すっ (11.7)
16	手にある合谷のツボは、第1・第2中手骨間に拇指の指腹を押し。	ぐっ (46.2)	46	導尿では患者に声をかけてから、患者の陰部をガーゼで拭きとる。	そっ (18.6)
17	ガーゼベースンを患者の皮膚に密着させ、口角から水などを排出させる。	ぴったり (92.7)	47	男性の導尿は、ガーゼで陰茎を包み示指と中指で包皮をさげ、陰茎を把持する。	そっ (12.6)
18	患者の手関節から肘関節を下から支えて寝衣の袖を脱がす。	そっ (40.5)	48	洗眼では、右手でカテーテルを持ち患者に口呼吸を促し、カテーテルを挿入する。	すっ (17.7)
19	患者の体の下に汚染寝衣を入ね込む。	ぐっ (28.0)	49	洗眼液注入後、トイレットペーパーを肛門周辺にあてて、カテーテルを抜く。	すっ (26.8)
20	清拭用タオルを示指に巻き付け、タオルの端がはみ出さないように覆りこむ。	びらびら (32.4)	50	注射の準備では、注射器内の空気を出し、注射針の先端まで薬液を満たす。	すっ (5.7)
21	患者の目を拭くときは、目頭から目じりにかけて拭く。	そっ (40.5)	51	注射を実施する時には、適切な刺入部位を探し、針を穿刺する。	すっ (29.8)
22	清拭する時に、洗淨剤の泡を使用して洗う。	ごしごし (15.3)	52	注射針を刺入部位に穿刺し、利き手でない方の手で内面を押し、薬液を注入する。	ゆっくり (12.7)
23	洗淨剤を用いて清拭した後は、洗淨剤が残らないように、ふき取る。	しっかり (45.4)	53	抜針する時にアルコール綿を刺入部位に当て、抜針する。	すっ (29.5)
24	清拭するときは、タオルを皮膚に密着させて拭く。	ぴったり (66.3)	54	抜針後は、刺入部位に手掌を当てマッサージする。	もみもみ (17.8)
25	清拭で洗淨剤ふき取った後は、バスタオルで覆い、押し拭きをする。	ぼんぼん (15.6)	55	体温測定は、体温計を腋窩に挿入し腋窩を密着させる。	ぴったり (52.4)
26	洗髪時に、ケープを巻くときは水の流れ込みを防止するために、密着して巻く。	ぴったり (70.2)	56	脈拍測定は、示指、中指、薬指を動脈に当て、軽く圧迫して測定する。	そっ (14.8)
27	洗髪は、頭部を支え反対の手の指の腹で頭皮をマッサージするように洗淨する。	ごしごし (44.0)	57	血圧測定は、マンシエットを上腕周囲に巻く。	くるく (8.4)
28	洗髪ですすぐ場合は、湯を適量をかけて洗い流す。	しっかり (15.8)	58	利き手で送気球を操作し、一定のリズムでマンシエットに送気する。	しゅっしゅ (29.8)
29	臥床患者に便器を挿入する。	すっ (38.0)	59	血圧測定では、1秒間に2mmHgの一定のペースを保ちながら減圧する。	すっ (12.0)
30	陰部洗淨では、陰部を開き、上から下に向けて微温湯をかける。	そっ (24.2)	60	聴診器の膜面を、軽く跡がつく程度の圧で上腕動脈に当てる。	ぴったり (31.3)

(2)オノマトペを用いた動作に対する若者のイメージ

対象者の概要

分析対象に用いた対象者数は2500人であり、19歳832人、20歳834人、21歳834人であった。対象者の現在の職業で最も多かったものは、大学(看護系以外)に在学中49.4%であり、次いで正規雇用(常勤)13.0%、アルバイト・パート・嘱託・非正規雇用の仕事7.8%、専門学校・専修学校(看護系以外)に在学中6.9%、大学(看護系)に在学中6.5%であった。

②オノマトペを用いた動作に対する若者のイメージ

20項目中、6割以上の者が共通したイメージを持っていた動作は9項目見られた。最も多くの者が共通したイメージであった動作は、「9.タオルで目を拭くときに、目をそっと拭く」動作であり、「注意深く拭く。(77.4%)」というイメージであった。次いで「4.うがいをするとき、口から吐いた水などが垂れないようコップまたはうがい用の容器を口元にぴったりとあてる。」動作については、「隙間なくくつつくようにあてる。(72.2%)」というイメージが多かった。

反して、イメージにばらつきがみられた項目は、5項目であった。「20.医師が胸の音を聞く時には、聴診器をぴったりとあてる。」動作については、「正しい場所にあてる。(42.0%)」イメージが多いものの「しっかりとずれないようにあてる。(34.1%)」、「すき間ができないようにくつつける。(23.9%)」とイメージにばらつきがみられた。「18.ゴム手袋を装着する時は、ぴったりとつける。」動作については、「すき間やずれがなくくつつける(45.2%)」、「ちょうどよく合っているようにつける(33.8%)」などとイメージはばらついてきた。

(3) ナーシングスキルオノマトペの特徴

調査から得られた総計 10531 語のナーシングスキルオノマトペを 50 音順に整理した結果、さ行 (44.5%)、ぱ行 (19.5%)、が行 (13.1%) の 3 つの行に集中していた。さ行の中で使用頻度の高い語は、「そっ (14.9%)」が最も多く、ぱ行では「ぴったり (11.1%)」、が行では「ぐっ (4.3%)」が最も多かった。これらのオノマトペの動作内容の意味をみると、「そっ」は物音を立てないように静かに物事を行う様子であり、「さっ」は動作が軽く素早い様子を意味する。また、「ぴったり」は隙間なくくっつき合う様子であり、「ぐっ」は力を込める様子意味する。用いられていたナーシングスキルオノマトペの動作内容の意味を分類すると、「素早さ」「正確性」「瞬時性」を意味するオノマトペである特徴がみられた。ナーシングスキルオノマトペデータベースの例を表 2 に示す。

No.	オノマトペ	ナーシングスキルオノマトペの表現内容	看護技術の例
1	そっ(そっ)	患者に振動を与えず静かに、注意深く行う動作時に発する。これにより、患者への安楽性が高まる可能性がある。	・シーツを入れる動作 ・ベッド柵を外す動作
2	ぴったり	すきまなくくっつきあう様子の時に発する。これにより安全性、正確性が高まる可能性がある。	・体温計を挿入する動作 ・聴診器を当てる動作
3	すっ(すっ)	素早く静かに動作を行う時に発する。これにより患者への安楽性が高まる可能性がある。	・針の穿刺や抜針の動作 ・カテーテルなどの挿入や抜管の動作
4	しっかり	固くて強く安定させる動作を行う時に発する。これにより安全性が高まる可能性がある。	・洗浄剤をふき取る動作 ・洗い流す動作
5	ゆっくり	急がないでゆとりをもって、静かにゆるやかな動作を行う時に発する。これにより安楽性、正確性が高まる可能性がある。	・採血管を転倒混和する動作 ・注射器の内筒を押す動作
6	ぐっ	力を込めて一息に行う動作の時に発する。これにより瞬時性が高まる可能性がある。	・寝衣を入れ込む動作 ・ツボを押す動作
7	くるくる	布などが巻かれる動作や軽やかに続いて回る動作の時に発する。	・回転させながら吸引する動作 ・シーツを丸める動作
8	さっ	動作が軽くすばやい動作を行う時に発する。これにより素早さ、瞬時性が高まる可能性がある。	・シーツを引き出す動作 ・洗浄剤をふき取る動作
9	びーん	はりのある様子の時に発する。これにより安楽性が高まる可能性がある。	・シーツを敷く動作 ・皮膚を伸展させる動作
10	ぎゅっ	強い力で圧迫する動作時に発する。これにより素早さ、瞬時性が高まる可能性がある。	・脇を締める動作 ・バルブを開ける動作

5. まとめ

本研究は、看護教員と若者を対象に実施したナーシングスキルオノマトペの実態調査と、イメージ調査の結果をもとに、オノマトペの分析を行い、看護教員が効果的な看護技術指導を実施するためのデータベースの構築を試み、次のような結果を得た。

- (1) 看護教員が看護技術指導時に多く用いているナーシングスキルオノマトペは、「そっ (そっ)」、「ぴったり」、「すっ (すっ)」であった。
- (2) ナーシングスキルオノマトペを用いた日常生活動作に対する 19 歳から 21 歳の若者の動作イメージは、看護教員と同じ動作イメージを有していたことから、日常生活援助技術の指導にオノマトペを使用することの有効性が示唆された。
- (3) 収集された 10531 語のナーシングスキルオノマトペは、「素早さ」「正確性」「瞬時性」に分類された。

今後は、ナーシングスキルオノマトペを使用した技術指導が、学習者の技術定着に与える影響に関してさらなる検証が必要である。

< 引用文献 >

- 大津廣子、佐藤美紀、滝内隆子、足立みゆき、学内実習における教員の基礎看護技術の実施状況と指導方法、愛知県立大学看護学部紀要、19 巻、2013、31-40
 大津廣子、看護技術教育とデモンストレーション、看護実践の科学、37 巻、2012、6-12
 生田久美子、「わざ」から知る、東京大学出版会、2007、93
 藤野良孝、井上康生、吉川正夫、仁科エミ、山田恒夫、運動学習のためのスポーツオノマトペデータベース、日本教育工学論文集、29 巻、2005、5-8
 小野正弘編、擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典、第 6 版、小学館、2020

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 永田 佳子, 林 暁子, 大津廣子	4. 巻 28
2. 論文標題 看護技術の指導時に用いているオノマトペ-生活援助技術の指導に焦点をあてて-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鈴鹿医療科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 81~88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林 暁子, 永田 佳子, 大津廣子	4. 巻 28
2. 論文標題 看護技術の指導時に用いているオノマトペ-診療援助技術の指導に焦点をあてて-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鈴鹿医療科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 89~96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 永田 佳子, 林 暁子, 大津廣子
2. 発表標題 生活援助技術の指導に用いているオノマトペ
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林 暁子, 永田佳子, 大津廣子
2. 発表標題 診療援助技術の指導に用いているオノマトペ
3. 学会等名 日本看護研究学会第47回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林 暁子、永田佳子、大津廣子
2. 発表標題 オノマトペを用いた動作に関する若者のイメージ - 看護学生と一般学生の違い -
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永田佳子、林 暁子、大津廣子
2. 発表標題 オノマトペを用いた動作に関する若者のイメージ - 性差による分析 -
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	林 暁子 (Hayashi Akiko) (90741257)	鈴鹿医療科学大学・看護学部・助教 (34104)	
研究分担者	永田 佳子 (Nagata Yoshiko) (20867402)	鈴鹿医療科学大学・看護学部・助教 (34104)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------